








《第110回景況アンケート調査(平成29年12月調査)》

とよしん景況天気図

業種	調査時期	現 状	見通し
		29/10~29/12	30/1~30/3
総 合			
製 造 業			
卸 売 業			
小 売 業			
サービス業			
建 設 業			

《記号の意味》

D I 数値	30 以上	良 い	
D I 数値	10 以上 ~ 30 未満	やや良い	
D I 数値	▲10 未満 ~ 10 未満	普 通	
D I 数値	▲10 以下 ~ ▲30 未満	やや悪い	
D I 数値	▲30 以下	悪 い	

《D I の意味》

D I とは、ディフュージョン・インデックス (拡散指数) の略で、増加 (良い) 企業の割合から減少 (悪い) 企業の割合を差し引いた値を指数化したものをいいます。

要 旨

『当地区の景況は、引続き緩やかに改善している。』

当期（10～12月）のDIは、業況+11.0（前期比+3.4ポイント）、売上+15.7（同+3.9ポイント）、収益+13.1（同+3.7ポイント）と全てのDIが前期比改善している。

一方、来期（1～3月）については、業況+5.9（当期比▲5.1ポイント）、売上+7.4（同▲8.3ポイント）、収益+8.2（同▲4.9ポイント）と全てのDIで当期比低下が見込まれている。

業況DI

最近3ヵ月の業況DIは、総合+11.0と前期比+3.4ポイント改善した。業種別では、製造業+16.1（前期比▲3.5ポイント）、卸売業+3.8（同+3.8ポイント）、小売業+3.7（同▲4.8ポイント）、サービス業+8.4（同+9.3ポイント）、建設業+11.6（同+9.3ポイント）と前期比では製造業、小売業で低下している。

先行き（1～3月）について、総合では+5.9と当期比▲5.1ポイントの低下が見込まれている。業種別では製造業+12.1（当期比▲4.0ポイント）、卸売業▲1.9（同▲5.7ポイント）、小売業±0.0（同▲3.7ポイント）、サービス業+1.7（同▲6.7ポイント）、建設業+7.0（同▲4.6ポイント）と全てのDIで当期比低下が見込まれている。

売上DI

最近3ヵ月の売上DIは、総合+15.7と前期比+3.9ポイント改善した。業種別では、製造業+24.8（前期比+2.4ポイント）、卸売業+9.6（同+5.4ポイント）、小売業+1.9（同▲11.7ポイント）、サービス業+14.3（同+5.4ポイント）、建設業+18.6（同+10.6ポイント）と前期比では小売業で低下している。

先行き（1～3月）について、総合では+7.4と当期比▲8.3ポイントの低下が見込まれている。業種別では、製造業+14.8（当期比▲10.0ポイント）、卸売業▲1.9（同▲11.5ポイント）、小売業±0.0（同▲1.9ポイント）、サービス業+5.0（同▲9.3ポイント）、建設業+10.5（同▲8.1ポイント）と全てのDIで当期比低下が見込まれている。

収益DI

最近3ヵ月の収益DIは、総合+13.1と前期比+3.7ポイント改善した。業種別では、製造業+20.8（前期比+3.3ポイント）、卸売業+5.8（同+1.6ポイント）、小売業+3.7（同▲11.6ポイント）、サービス業+9.2（同+1.2ポイント）、建設業+16.3（同+11.8ポイント）と、前期比では小売業で低下している。

先行き（1～3月）について、総合では+8.2と当期比▲4.9ポイントの低下が見込まれている。業種別では、製造業+15.4（当期比▲5.4ポイント）、卸売業±0.0（同▲5.8ポイント）、小売業+3.7（同±0.0ポイント）、サービス業+5.9（同▲3.3ポイント）、建設業+10.5（同▲5.8ポイント）と小売業を除き、当期比低下が見込まれている。

とよしん景況調査

《調査要領》

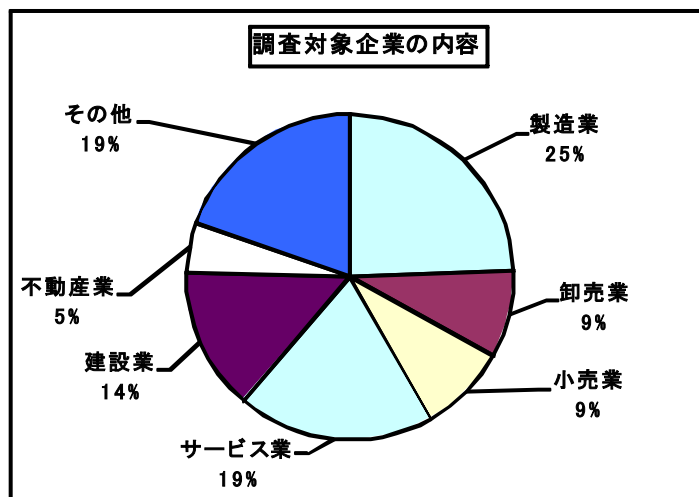
調査対象時期 平成29年 10月～12月 実績
平成30年 1月～3月 見通し

調査方法 聞き取りアンケート調査

調査対象企業 当金庫取引先 610社

分析方法

各質問項目で「増加(上昇)」したとする企業が全体に占める構成比と、「減少(下降)」したとする企業の構成比との差(DI・判断指数)を中心に分析しています。



DIの推移

<業況>

(数値はDI数値)

業種	時期	平成28年	平成29年	4~6月	7~9月	10~12月		平成30年	
		10~12月	1~3月					1~3月見通し	
総合		7.8	6.5	5.3	7.6	11.0	↑	5.9	↓
製造業		11.0	11.3	9.3	19.6	16.1	↓	12.1	↓
卸売業		7.5	9.6	4.0	0.0	3.8	↑	▲1.9	↓
小売業		9.4	5.5	14.3	8.5	3.7	↓	0.0	↓
サービス業		8.2	2.8	▲5.1	▲0.9	8.4	↑	1.7	↓
建設業		6.4	0.0	3.6	2.3	11.6	↑	7.0	↓

<売上>

(数値はDI数値)

業種	時期	平成28年	平成29年	4~6月	7~9月	10~12月		平成30年	
		10~12月	1~3月					1~3月見通し	
総合		12.1	9.5	6.6	11.8	15.7	↑	7.4	↓
製造業		16.6	18.4	11.4	22.4	24.8	↑	14.8	↓
卸売業		9.4	7.7	0.0	4.2	9.6	↑	▲1.9	↓
小売業		9.4	10.9	19.6	13.6	1.9	↓	0.0	↓
サービス業		16.4	9.3	▲4.3	8.9	14.3	↑	5.0	↓
建設業		13.8	1.1	8.3	8.0	18.6	↑	10.5	↓

<収益>

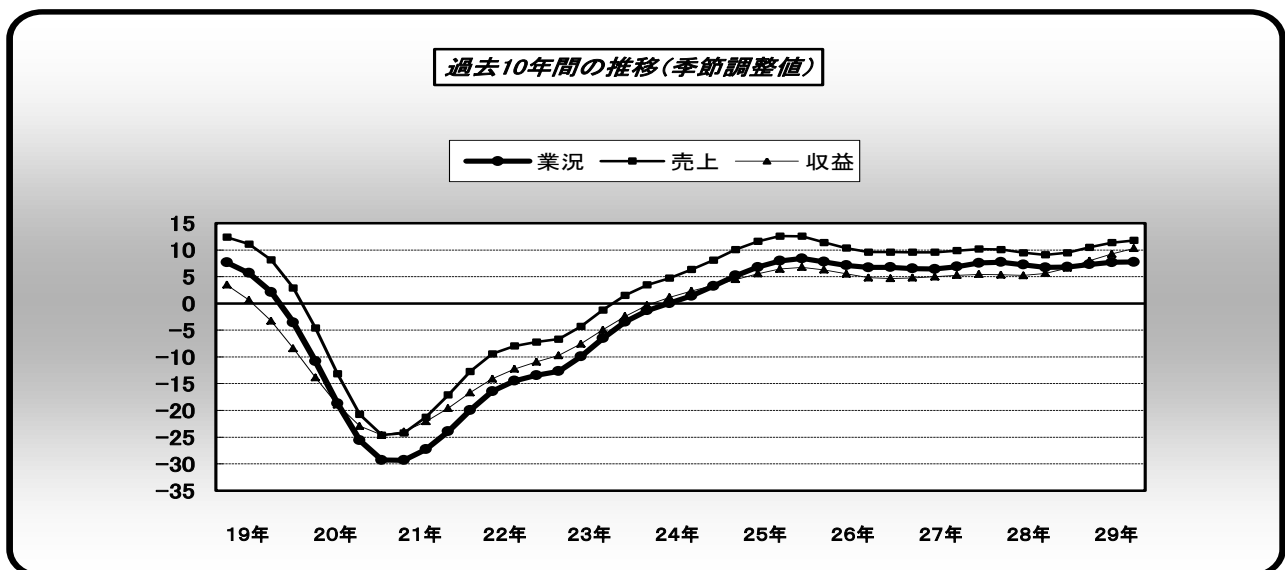
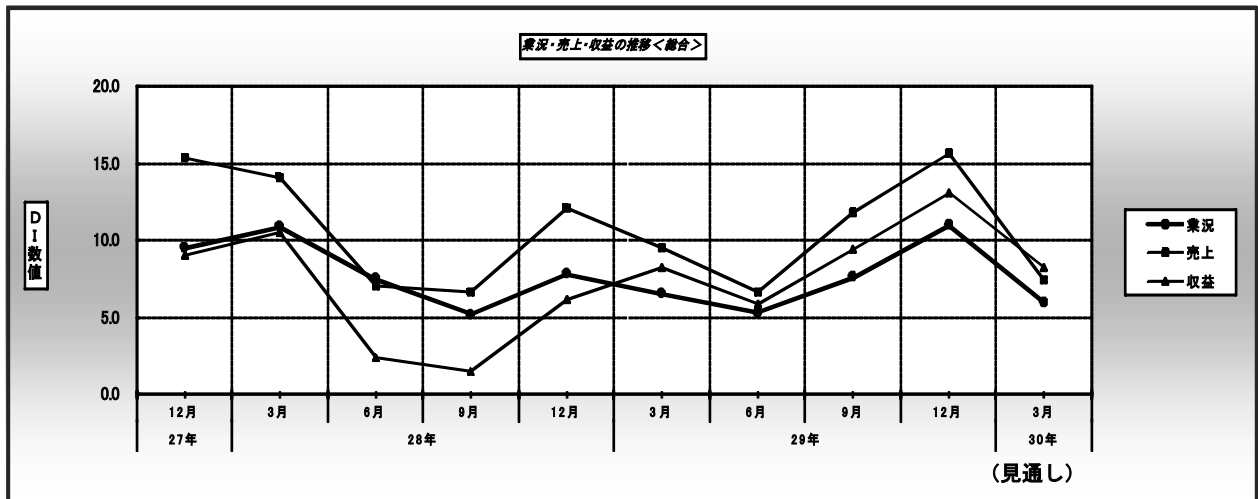
(数値はDI数値)

業種	時期	平成28年	平成29年	4~6月	7~9月	10~12月		平成30年	
		10~12月	1~3月					1~3月見通し	
総合		6.1	8.2	5.8	9.4	13.1	↑	8.2	↓
製造業		6.9	15.6	8.6	17.5	20.8	↑	15.4	↓
卸売業		1.9	7.7	2.0	4.2	5.8	↑	0.0	↓
小売業		1.9	3.6	19.6	15.3	3.7	↓	3.7	→
サービス業		8.2	10.2	▲2.6	8.0	9.2	↑	5.9	↓
建設業		6.4	▲2.2	6.0	4.5	16.3	↑	10.5	↓

総 合

当期のD Iは、業況+11.0（前期比+3.4ポイント）、売上+15.7（同+3.9ポイント）、収益+13.1（同+3.7ポイント）と前期比では全てのD Iが改善している。一方、来期については、全てのD Iで当期比低下が見込まれている。

業種別にみると、製造業のうち、自動車部品関連については、電気自動車関連先においては、積極的な設備投資をしている先もみられる。卸売業全体としては、人手不足が経営課題となっており、給与水準の引上げを検討する企業も出始めているが、人件費増加に伴う収益性低下が危惧されている。小売業全体としては、冬のボーナス支給により、売上の確保を目指している。サービス業のうち、ホテル・旅館業については、人手不足等の課題はあるものの、初詣等に訪れる観光客の予約は好調で、引続き、中国人団体客の利用も見込まれている。建設業全体としては、官庁・民間ともに堅調な推移が見込まれているが、依然として人手不足は深刻な経営課題となっている。



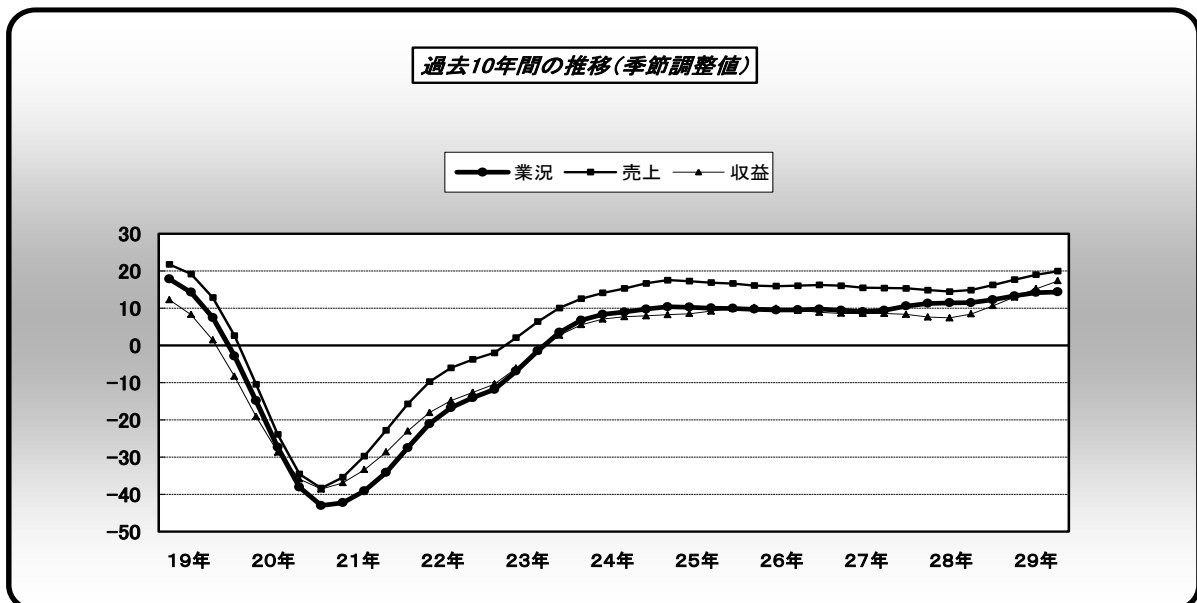
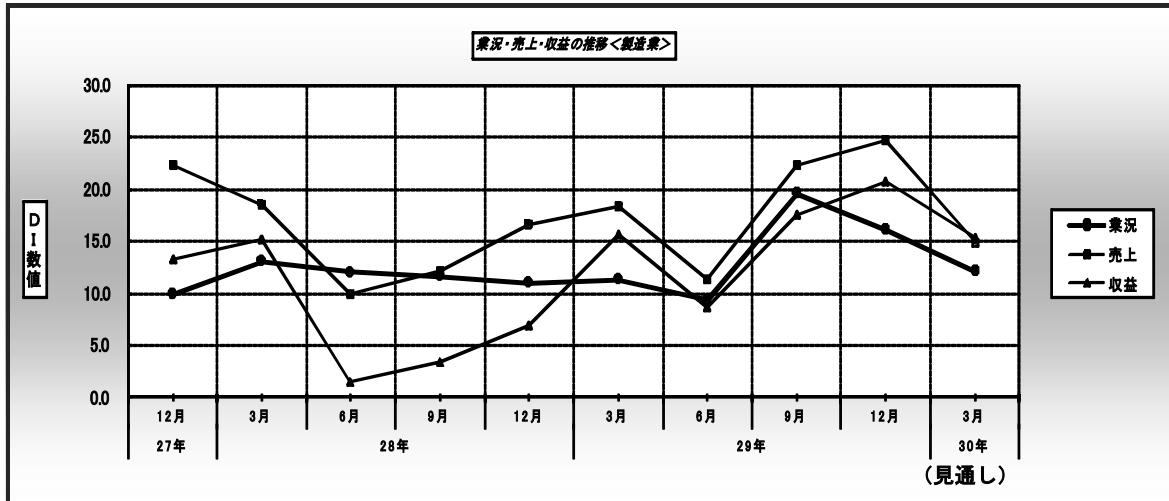
製造業

当期のD Iは、業況+16.1（前期比▲3.5ポイント）、売上+24.8（同+2.4ポイント）、収益+20.8（同+3.3ポイント）と前期比では業況D Iが低下する一方、売上D I、収益D Iは改善している。来期は、全てのD Iで当期比低下が見込まれている。

自動車部品関連については、電気自動車関連先においては、積極的な設備投資をしている先もみられる。それ以外の先においても、安定して受注は確保できているものの、一方では生産ラインの稼働状況が低い先もあり、企業間で格差がみられる。

電気機器関連については、工場及びラインの入れ替えや増設により受注は増加傾向にあるが、人手不足による外注費・人件費等の高騰が懸念されている。

印刷業関連については、10月からはカレンダー等の受注が集中するため、売上が増加するシーズンではあるが、インクや紙などの原材料の仕入単価の高止まり等により、利幅は縮小傾向にある。



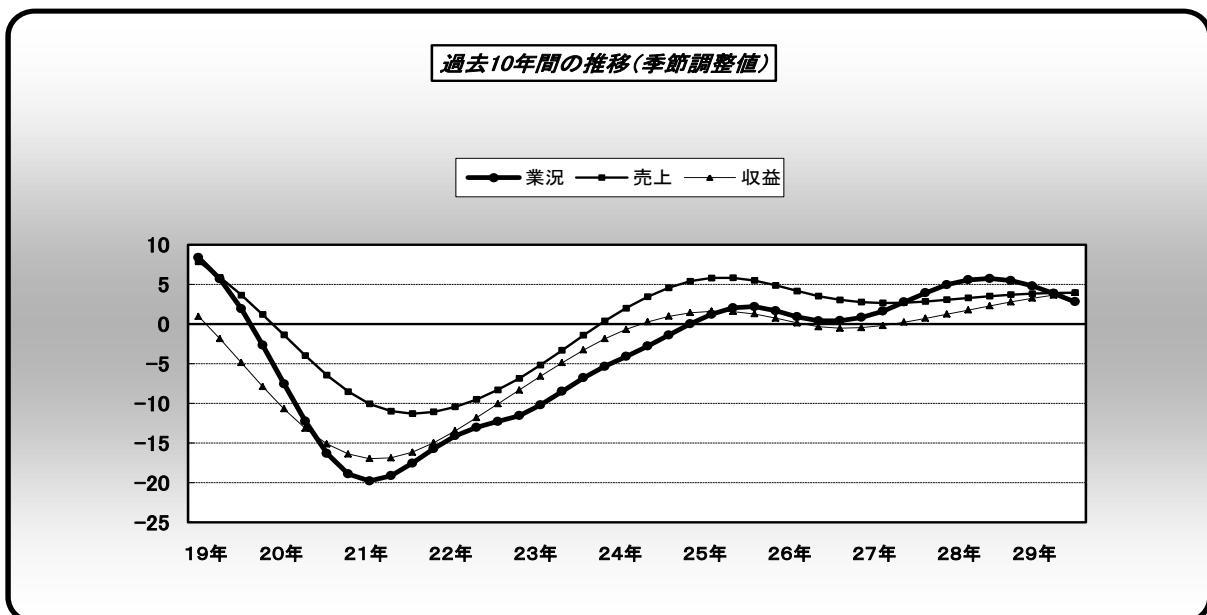
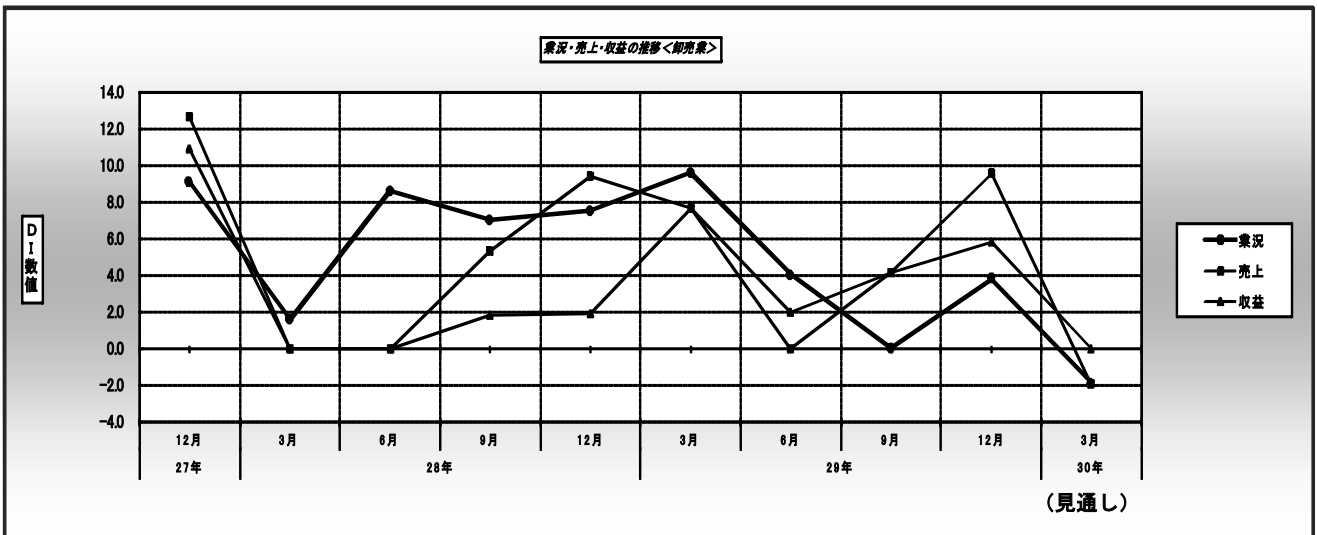
卸売業

当期のD Iは、業況+3.8（前期比+3.8ポイント）、売上+9.6（同+5.4ポイント）、収益+5.8（同+1.6ポイント）と前期比では全てのD Iが改善している。一方、来期については、全てのD Iで当期比低下が見込まれている。

卸売業全体としては、人手不足が経営課題となっており、給与水準の引上げを検討する企業も出始めているが、人件費増加に伴う収益性低下が危惧されている。

青果卸については、当地区の主要青果物である冬キャベツは、台風や長雨の影響で生育に遅れがみられ、出荷量が平年を下回っていることから、価格が高値で推移している。しかし、天候が落ち着いてきたことから、徐々に価格も安定してくる見通しとなっている。

木材卸については、米材、欧州材は中国での需要増加や円安等により、価格は高値で推移している。外材の需要が続けば、国産材の需要が高まり、価格が上昇する見通しとなっている。

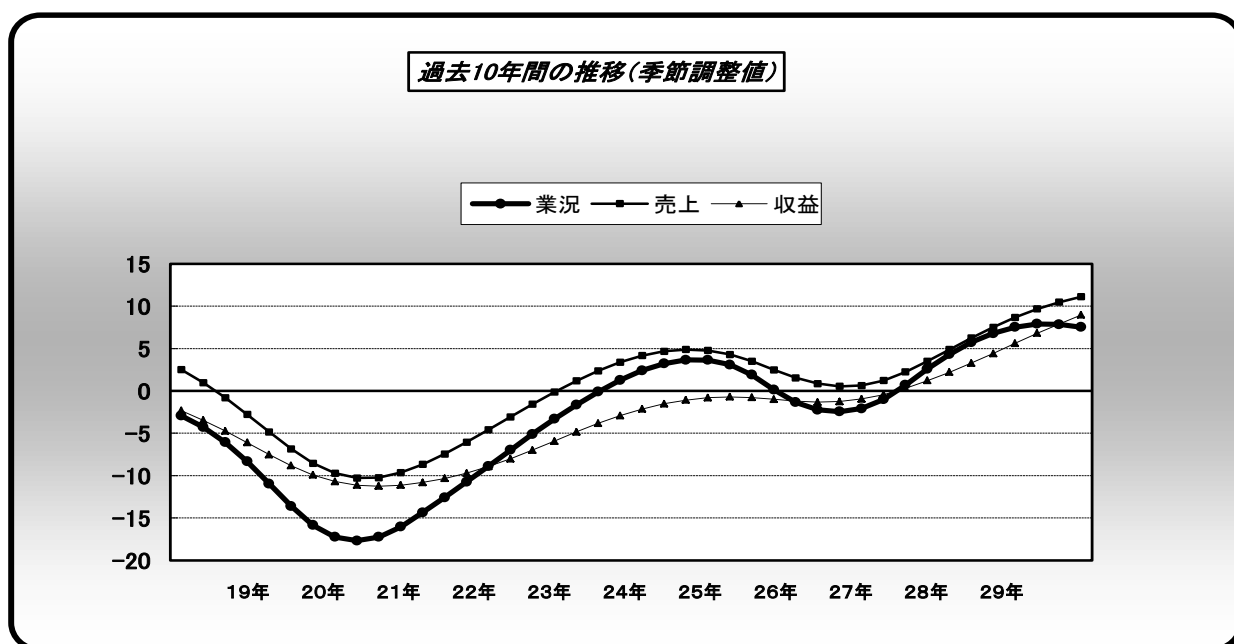
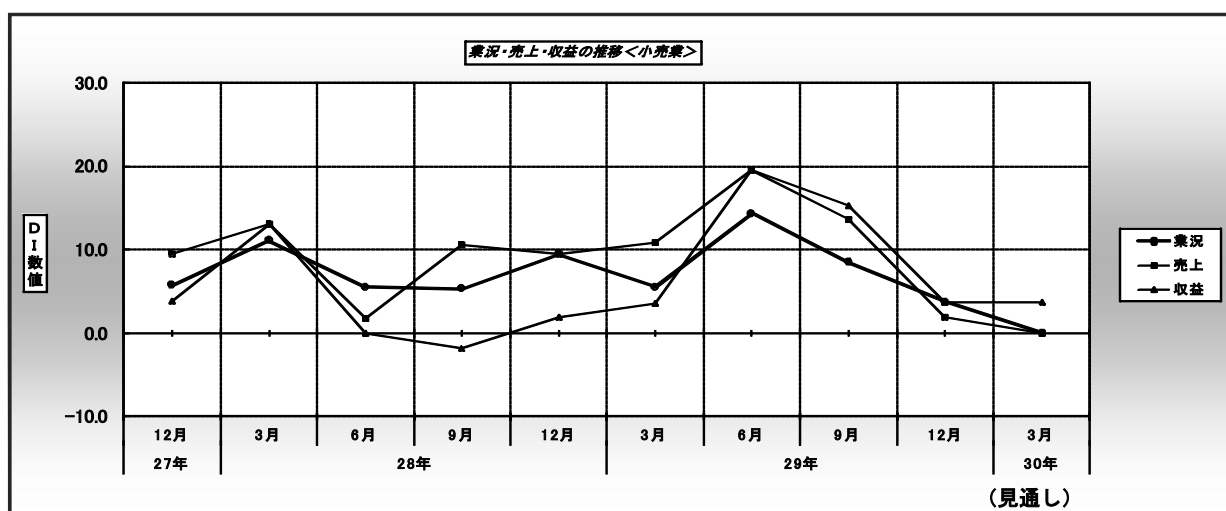


小売業

当期のD Iは、業況+3.7（前期比▲4.8ポイント）、売上+1.9（同▲11.7ポイント）、収益+3.7（同▲11.6ポイント）と前期比では全てのD Iが低下している。来期は、収益D Iは横ばいで、業況D I、売上D Iは当期比低下することが見込まれている。

小売業全体としては、冬のボーナス支給により、売上の確保を目指している。しかし、小規模小売店においては、依然として大型量販店への顧客の流出や価格競争による収益性低下が課題となっている。

自動車販売については、新車販売は、無資格検査問題の影響等により、売上が落ち込んでいる先もみられる。軽自動車は、新車効果もあり、売上が増加している先がある。輸入車販売は、国産車の不正問題等の影響もあり、売上は堅調に推移している。



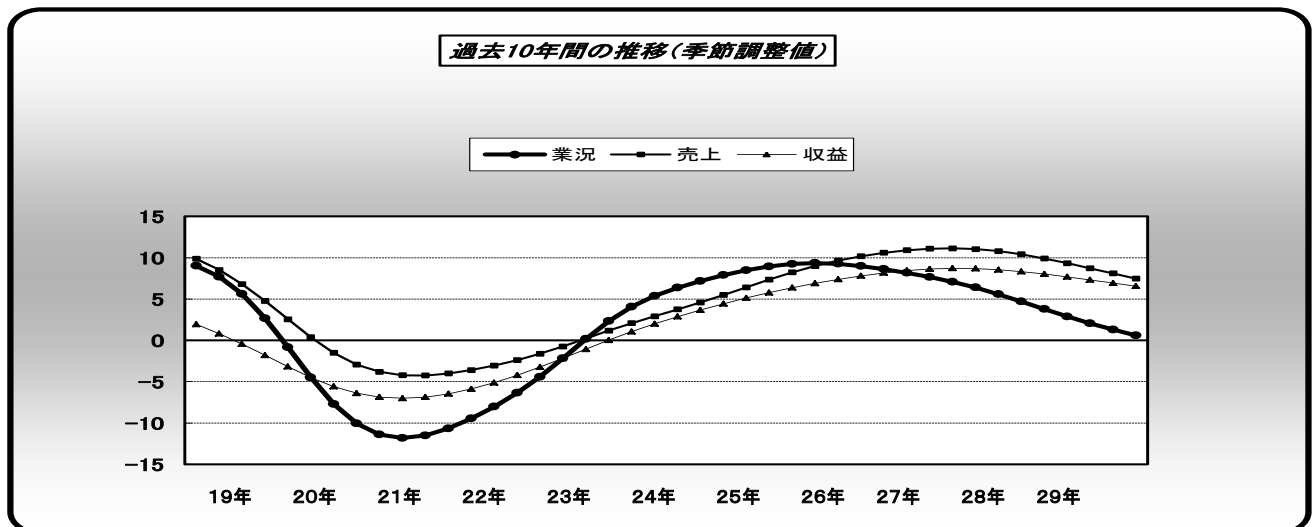
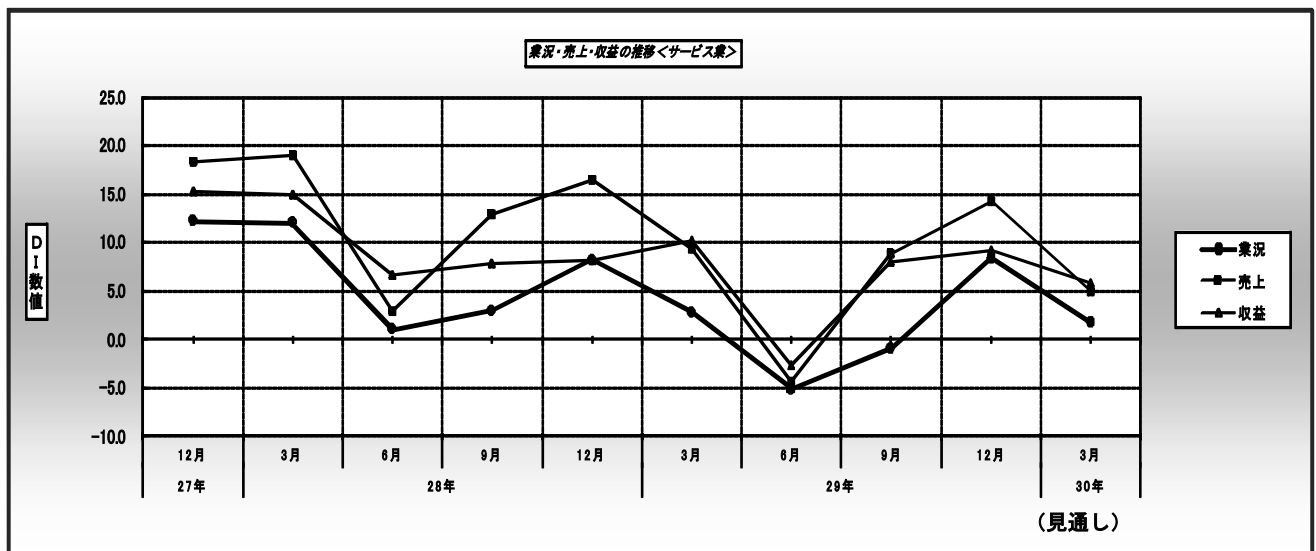
サービス業

当期のD Iは、業況+8.4（前期比+9.3ポイント）、売上+14.3（同+5.4ポイント）、収益+9.2（同+1.2ポイント）と前期比では全てのD Iが改善している。一方、来期については、全てのD Iについて当期比低下が見込まれている。

ホテル・旅館業については、人手不足等の課題はあるものの、初詣等に訪れる観光客の予約は好調で、引続き、中国人団体客の利用も見込まれている。

医療・保健衛生業については、インフルエンザ流行前の予防接種増加が見込まれるが、ワクチンが不足している状況がみられる。医療機関共通の経営課題として、収益性の確保があげられており、来年度の診療報酬の改定等の動向が注視されている。

美容業については、競合が激しい中、カットは行わず、カラーのみの店舗にカフェを併設し、出店するなど、差別化を図っている先もみられる。



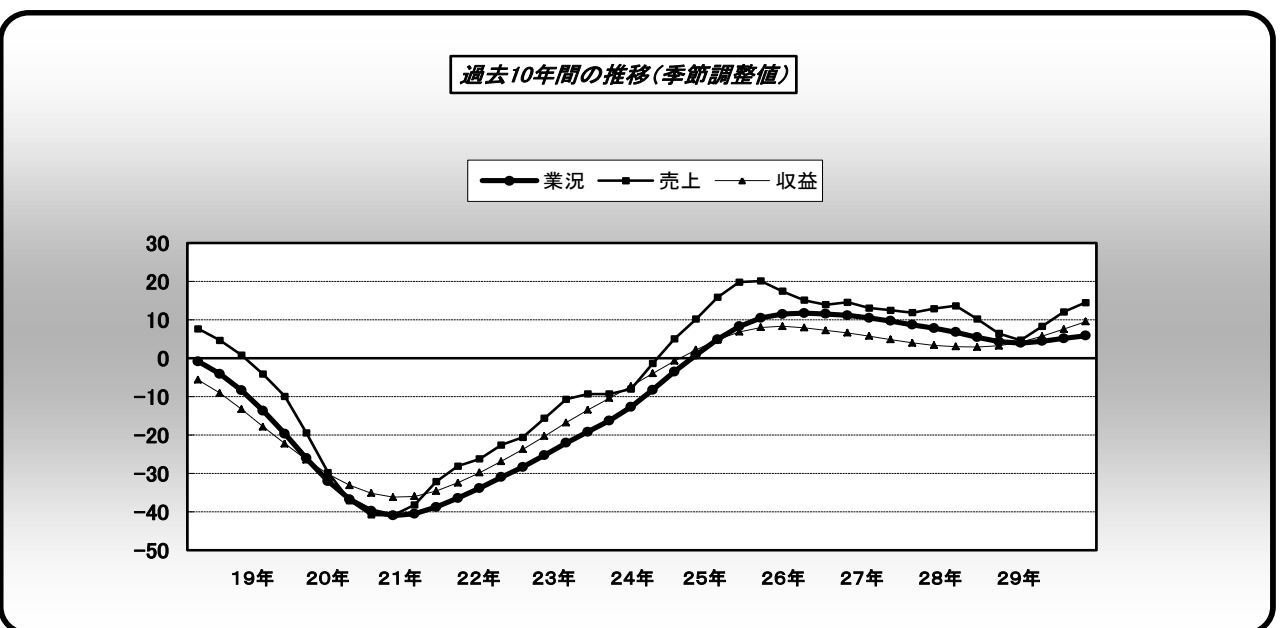
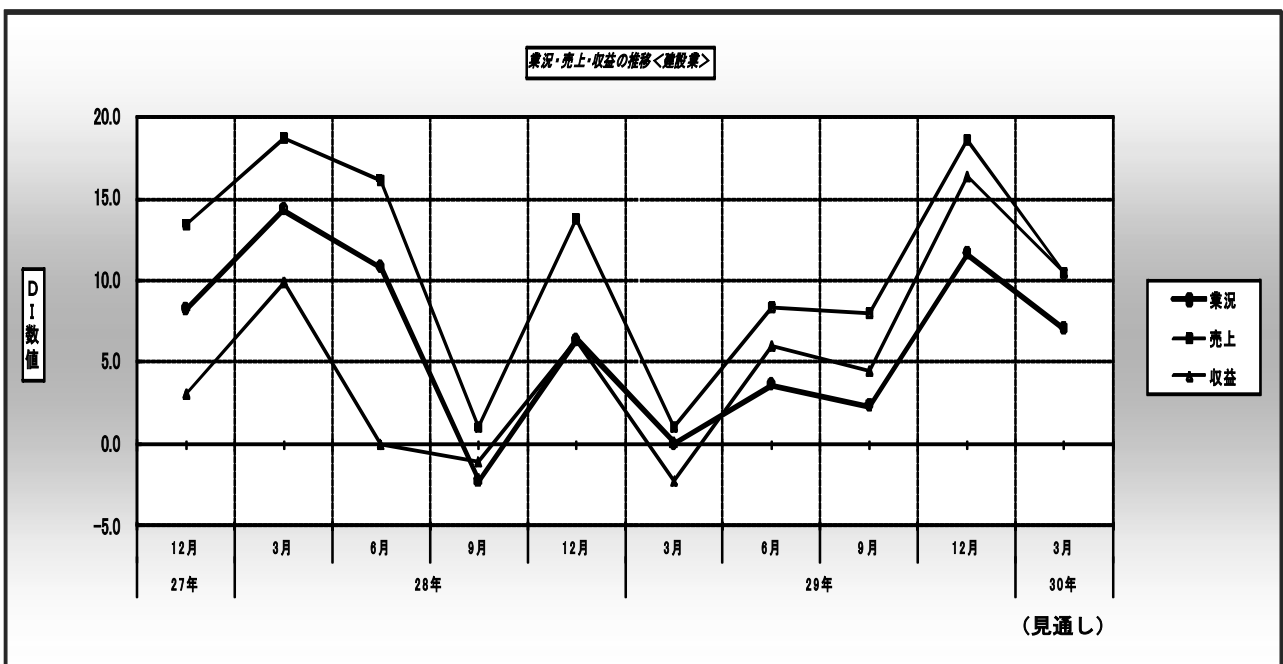
建設業

当期のD Iは、業況+11.6（前期比+9.3ポイント）、売上+18.6（同+10.6ポイント）、収益+16.3（同+11.8ポイント）と全てのD Iが前期比改善している。一方、来期については、全てのD Iで低下が見込まれている。

建設業全体としては、官庁・民間ともに堅調な推移が見込まれているが、依然として人手不足は深刻な経営課題となっている。

公共工事については、大きな工事はないが、受注は堅調に推移している。

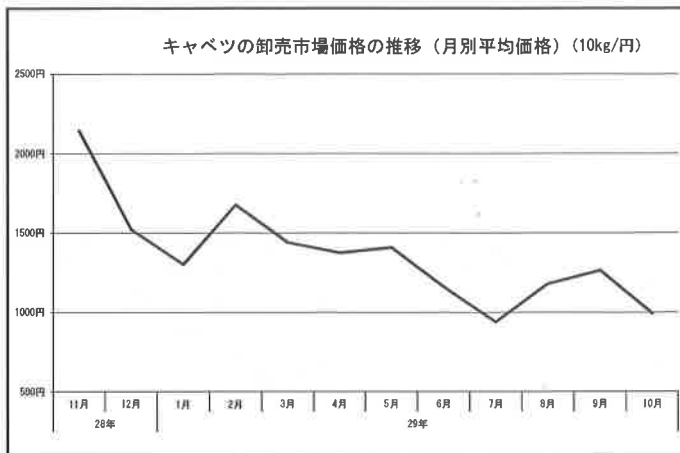
民間工事については、住宅の新築工事は減少傾向にあるものの、リフォーム工事件数は順調に確保できており、リフォーム工事については、順調に推移していく見込である。



農業

野菜

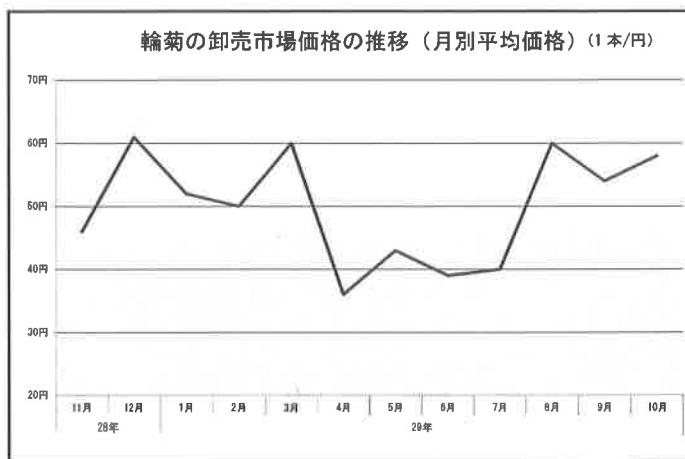
露地野菜のキャベツは、10月の2度の台風と長雨の影響による生育不良から高値で推移している。また、他県産のキャベツについても同じく天候不良により高値で推移している。今後は、天候や他県産での育成状況の影響を受けなければ、価格が安定して推移していく見込みとなっている。



※名古屋中央卸売市場の卸売価格を参考

菊

菊については、年末年始やお彼岸には需要があり、今後、価格が上昇すると見込まれている。しかし、5月中旬までの生産は、加温や電照の設備を必要とする抑制栽培によるもので、経費負担の増加により、利益水準は、低下する見通しである。



※（社）日本花き卸売市場協会の調査価格を参考

水産業

シラスうなぎの漁獲量は、夏場の黒潮の蛇行の影響で捕獲量の減少が懸念されていたが、若干の減少に留まっているとの見方がされている。

シラス（イワシ類）の漁獲量は、夏場から不漁が続いており、価格が高騰している。

運輸業

運輸業については、輸送量は安定推移しているが、人手不足や原油価格の高騰等による輸送コストの増加等の課題がある。

不動産業

不動産業については、依然として、個人住宅用地の売買事例は少ない状況が続いている。一方、店舗用地の売買や賃貸、企業の工場用地や倉庫用地の需要は多くみられている。